

## 公開講座『グローバルな視点から見る新潟企業に必要な成長戦略』



富山栄子准教授による講義の様子

2010年10月16日(土)、一般の方々を対象とした公開講座を開催しました。学外から西澤和夫氏(クリーンテクノロジー(株)代表取締役社長)、高野雅哉氏(磨き屋シンジケート 事務局)、石谷康人氏(株東芝ビジュアルプロダクツ社 コアテクノロジーセンター参事)をお迎えし、本学教員は富山栄子教授、丸山一芳准教授が講義を行いました。「グローバル」「新潟企業」という同一キーワードのもと、専門分野の異なる5名の講師がそれぞれの切り口で講義を行い、受講者の方々から高い評価をいただきました。

## 北畑 隆生 氏(元経済産業事務次官)による特別講演会を開催

2010年12月18日(土)、NSG学生総合プラザSTEP(新潟市中央区)にて、元経済産業事務次官の北畑隆生氏を講師にお迎えした特別講演会を開催しました。講演テーマは、『人口減少を克服する新成長戦略とベンチャー企業への期待』。本学院生や県内の経営者ら約300名が受講しました。北畑氏は、新しい技術やビジネスモデルに基づく新規事業の必要性について訴え、ベンチャー企業への積極的な投資、国や地域を挙げて育てる仕組みづくりなどが重要であるという持論を展開しました。



北畑 隆生 氏

# i n f o r m a t i o n

**特別講義・特別講演会情報** 本学客員教授による特別講義を、一般の方々にも公開しております。ぜひご参加ください。(受講料:各1,000円、要事前申込)

日時	講師	テーマ	会場
2011年2月 5日(土) 13:30~15:00	矢内 廣 客員教授 びあ(株) 代表取締役社長	「企業経営に必要なもの」	新潟キャンパス
2011年2月26日(土) 10:30~12:00	大平 喜信 客員教授 (株)雪国まいたけ 代表取締役社長	「新規事業」	新潟キャンパス/東京キャンパス ※東京はテレビ会議システムによる受講
2011年3月12日(土) 13:30~15:00	田端 一宏 客員教授 (株)プライムショッピング 代表取締役社長	「アジアに伸びるTVショッピング」	新潟キャンパス/東京キャンパス ※東京はテレビ会議システムによる受講
2011年3月19日(土) 13:30~15:00	池田 弘 事業創造大学院大学 総長	「一度きりの人生を悔いなく生きる」	新潟キャンパス/東京キャンパス ※東京はテレビ会議システムによる受講

**大学院説明会情報** 出願をお考えの方は、事前に必ず大学院説明会へご参加ください(要事前申込)。

2011年	2/12(土)・3/未定(近日中に決定)
-------	----------------------

※開催時間は、キャンパスにより異なります。本学HPにてご確認ください。

**プログラム** 大学院設立の趣旨説明、教育課程の特徴説明、入試概要の説明、個別相談・校舎見学など

《ご都合により大学院説明会へ参加できない方へ》個別に日程を調整いたします。お気軽に本学までお問い合わせください。

**入学試験情報** 2011年度春学期(4月入学)入学試験日程

	出願締切(必着)	入学試験日	募集対象
第4次募集	2011年 1月28日(金)	2011年 2月 5日(土)	日本人/外国人(国内在住のみ)
第5次募集	2011年 2月25日(金)	2011年 3月 5日(土)	日本人/外国人(国内在住のみ)
第6次募集	2011年 3月18日(金)	2011年 3月26日(土)	日本人のみ

※最終学歴によっては、出願前に出願資格審査が必要となる場合があります。

**募集概要** 詳しくは、募集要項にてご確認ください。募集要項をご希望の方は、本学までお申込みください。(無料)

# JPRESS vol.22

Published by Graduate Institute for Entrepreneurial Studies



2011年2月1日発行  
編集・発行  
事業創造大学院大学  
広報委員会・事務局



【バックナンバー】  
広報誌「J-Press」のバックナンバーは、  
本学ホームページからダウンロードできます。

## CONTENTS

表紙 誌上講義  
p.2 研究室紹介(丸山研究室)  
p.3 ベトナム特集  
p.4 大学院トピックス、インフォメーション

## 誌上講義

### 「インターネット起業」

今年の1月16日、米国ハリウッドの第68回ゴールデングローブ賞に、実話をもとにした映画『ソーシャル・ネットワーク』が作品賞、監督賞、脚本賞、作曲賞の4冠に輝いた。

主人公マーク・ザッカーバーグは大学の名簿をハッカーとして盗み出し、女子大生の比較サイト「Facemash」を作ったことが大学当局の知ることなり、譴責処分となる。

その後、彼はSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)「The facebook」を2004年2月に立ち上げるが、直後に、ウィンクルヴォス兄弟のSNS「ハーバード・コネクション」の開発にザッカーバーグは協力すると見せかけて、そのアイデアを盗んだとして訴えられる。

一方、SNS「フェイス・ブック」は当初ハーバードの学生のみで開放していたものが、全米の大学、高校、さらに一般の人誰でも会員になれるように発展していった。

映画は、創業後に社長に招かれたシーン・パーカーの覚せい剤所持容疑での逮捕と、ウィンクルヴォス兄弟への莫大な和解金の支払い、共同創業者で起業資金の提供者でもあったエンドワルド・サベリンからの訴訟と和解金の支払いで終わる。

「フェイス・ブック」は昨年3月に、そのアクセス数でグーグルを抜き、世界一となった。現在、世界中に5億人を超える会員数を持ち、売上2,000億円、株式時価総額は4兆円を超え、グーグル、アマゾンに続き第3位のネット関連会社となった。

その華々しい成長の軌跡は、ガレージ・ショップから始まったアップル、マイクロソフト、グーグルに続くアメリカン・ドリームを実現した成功物語である。

最初期のSNSは1997年に創業した「シックス・デグリーズ」である。その後数多く生まれたSNSの中では、数百万人の会員を集めた「フレンド・スター」「マイ・スペース」などが先行していたが、いずれもフェイス・ブックに敗れ去った。

ほとんどの米国のSNSサイトは出会い系サイトで始まり、そのアイデアは似たりよったりである。フェイス・ブックが数社から「アイデアの盗用」として訴訟されたことでも分かるように、アイデアだけでは大きな差別化にはならない。

それでは、何がフェイス・ブックを世界一にさせたのであろうか。

まず、創業者ザッカーバーグの強いリーダーシップである。19歳で創業したザッカーバーグは、友人を引きつける力、説得力に優れていた。また、そのリーダーシップで強力なチーム(組織)を作りあげた。手始めに、ハーバードの寮のルームメイト3人をフェイス・ブックのメンバーにした。中でも、同級生モスコヴィッツはマーケティングに力を発揮し、フェイス・ブックを全米の大学に広げていった。また、音楽交換ソフト、ナップスターの元創業者シーン・パーカーを社長にし、シリコンバレーの投資家の資金を集めることにも成功した。

ザッカーバーグは単に「行け行けどんどん」の幼い経営者ではなかった。企業を冷静に認識し「堅い決心と同時に十分な懐疑心」を備えていた。フェイス・ブックが一時の流行に終わり、消えて無くなるリスクも想定し、代替案や他のプロジェクトにも力を注いでいた。フェイス・ブックはパーカーの経験とザッカーバーグの猜疑心のおかげで、出資をもくろむベンチャー・キャピタルにとってタフな交渉相手となった。

フェイス・ブックが創業して一年以内の、まだ6人の社員しかいない時に、「フェイス・ブックを社会のプラットフォームにしたい」とザッカーバーグは語っている。マイクロソフトのウィンドウズやグーグル、ヤフーのような、様々なソフトウェアがのる「プラットフォーム」である。ザッカーバーグはそのプラットフォームを「ソーシャル・グラフ」と呼び、人と人とのつながりのことを指す強力な配信プラットフォームを作ることが企業理念であると説明した。

ところで、フェイス・ブックのビジネス・モデルは何であろうか。ザッカーバーグは広告宣伝を行うことを毛嫌いしてきた。しかし、2008年にザッカーバーグはジェリル・サンドバーグをグーグルの副社長から引き抜いてCOOとしたが、彼女は広告収入を基本収入とするビジネスモデルを構築し、年間2,000億円の売上を達成している。

アメリカン・ドリームを達成したインターネットでの事業創造の成功の鍵は、「事業アイデア」だけではなく、「企業理念」、「ビジネス・モデル」、「リーダーシップ」、「強靱な組織」、「冷静な判断力」、「資金調達能力」、「マーケティング力」であることは疑いもない。



教授 藤岡 宥三

— Fujioka Yuzo —

【担当科目】  
ITと経営、IT基盤技術、演習

慶應義塾大学工学部~米国カーネギーメロン大学経営工学大学院(現同大テッパースクールオブビジネス)修士課程修了  
NRIアメリカ社長、NRI香港会長、NRIシンガポール社長~(株)野村総合研究所常務取締役~NRIデータサービス(株)専務取締役~NRIデータアイテック(株)代表取締役社長  
IT企業設立、経営に関する豊富な実務経験を有する。



## 「知的異種格闘技戦としてのゼミナール」

本学の最大の特徴である事業計画書の作成は「演習Ⅰ・Ⅱ」という講義科目において、いわゆるゼミナール形式で指導がおこなわれています。今回はこの演習での活動について紹介したいと思います。丸山研究室(通称まる研)は、演習Ⅰが4名、演習Ⅱが2名の総勢6名が所属しています。このうち3名の女性はハノイ貿易大学からの留学生です。したがってベトナムからの留学生と日本の男性社会人3名による調査・研究発表と討議が毎週金曜日に3時間以上行われています。研究室でこだわっている事は「理論と実務のリエゾン」と「徹底的な討議」です。単なる知識としての理論の理解や、単なる現場としての実務経験ではなく、現場と理論が相互に絡み合うような理解と実践を目指しています。ですから研究室メンバーになるためには事前に専門書に関する課題の提出と問題意識に関する面接を義務づけています。こういった課題をくぐり抜けてきたメンバーのモチベーションはとて高いです。メンバーの事業計画立案・調査・研究のテーマは、小生の専門である知識経営論・組織論・人材マネジメントと関連しているものだけでなく、多岐にわたっています。演習Ⅱでは「動物関連産業におけるコンサルティング業」(長谷川陽一)、「パナソニックとリクルートにおける人材マネジメント思想の比較研究」(BUI THI XUAN)、演習Ⅰでは「新潟における新たな教育産業ドメインでの起業」(権瓶拓也)、「日本企業を事例とした企業文化論の研究」(PHAM MINH PHUC)、「ベトナムでのチェーン展開を見据えた日本のコンビニエンスストア業界の研究」(BUI THI THUY VAN)、「新潟における新たな付加価値による塾の起業」(遠山幸男)といったものです。いわゆる修士論文を書くことをイメージした人材マネジメントや組織論に関する研究と、本学の本来の演習である事業計画書を書くことを目的としたテーマの二つに分かれています。ゼミでの討議は大変熱心なもので、各自から厳しい意見や、素朴な質問、洞察に満ちたアドバイスがなされて、あっという間に3時間以上が過ぎてしまいます。たとえば、留学生の組織論関係の研究に対しては、日本人が自らの人事業務経験からできる研究へのアドバイスがあったり、一般従業員としての意見であったり、ベトナム人として日本企業のベトナム現地法人に勤務した経験から感じた感想をもとにディスカッションがなされます。コンビニエンスストアの調査に対しては、一般顧客としての意見であったり、アルバイト店員としての視点であったり、セブンイレブンの鈴木敏文氏の著書からの質問であったり、ハノイ市内ではまだコンビニエンスストアがあまり無いことからの実感に基づいた意見交換であったりします。教育産業に関するディスカッションでは秋田県立大学の教養教育を重視した本質的取り組みから、最近流行の「かよこおばあちゃん」の脳科学を利用した教育や、横峯式教育法などについて、提唱者の著書や企業の人材育成論、あるいはハノイ貿易大学の教育システムをベースにして議論がなされています。一見、これらのテーマには関連性が無いようにも感じられますが、「人を中心としたマネジメント」について、人材マネジメントや組織論、知識経営論といった理論的枠組みから考察しうるテーマであると考えています。所属院生のキャリアや研究テーマは様々ですが、それをよいダイバーシティとしながら「人と組織」を中心とした「事業」についてディスカッションできつつあるように感じます。現在のメンバーでの議論ははじまって3カ月足らずですが、共通言語としての本学の科目群や、組織論の基本的文献の知識が相互に関連しながらの議論になる手前まで来ています。これまでに縁がなかったであろう人材マネジメント論の大家ジェフリー・フェファー先生や知識経営論の生みの親である野中郁次郎先生といった世界的権威の議論が少しずつでも自分の実際の業務の中や、これから立案する事業計画、あるいは執筆する組織論の修士論文の中に単なる知識としてだけでなく、きちんと理解した知恵として息づく日がゼミの討議の中でくることを楽しみにしています。これまでに経営学の論文をほとんど読んだことのない彼らがこの短い期間に急速に成長しています。この原稿を書いているのは12月末です。彼らが正月休みにどのぐらいの論文を読み、それを実務の現場に落とし込んで考察し、自らの業務や組織についていかに省察するのか、今後のゼミ生のさらなる努力に期待したいです。



准教授  
**丸山 一芳**  
— Maruyama Kazuyoshi —

【担当科目】  
人材マネジメント、リーダーシップ、演習  
新潟大学～北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士前期課程修了  
新潟市生まれ。大学卒業後、松下電器産業株式会社(現パナソニック株式会社)にて人事部門に勤務し任用や国際人事を担当。退職後、大学院にてナレッジ・マネジメント(知識経営論)や人材マネジメントの研究を開始。あわせて株式会社リクルート・ワークス研究所客員研究員を務めるなど民間企業との共同研究を積極的に行ってきた。  
組織学会、経営行動科学学会、Academy of Management 会員。修士(知識科学)



ゼミの様子

本学では、優秀な留学生の積極的な受け入れを推進しており、中でもベトナムとの交流が最も盛んに行われています。昨年10月にはハノイ大学、ハノイ国家大学外国語大学と新たに提携を結びました。すでに多くの学生が入学しているハノイ貿易大学と合わせ、ベトナムの提携校は3校となりました。いずれも歴史と伝統のある、ベトナムを代表する名門大学です。本学のベトナム出身留学生には非常に優秀な人材が多く、共に学び、人的ネットワークを築くことは、日本人の院生や他の国からの留学生にとって大きなメリットとなっています。

### ハノイ大学、ハノイ国家大学外国語大学の学長らが来日

10月6日(水)にハノイ大学と、10月27日(水)にハノイ国家大学外国語大学と提携を結びました。ハノイ大学からはNGUYEN DINH LUAN学長、ハノイ国家大学外国語大学からはNGUYEN HOA学長が来日され、新潟本校キャンパスで調印式が行われました。調印式後は、学生の受け入れや今後の交流に関する具体的な話し合い、ベトナム出身学生との懇親会などが行われました。



ハノイ大学のLUAN学長(左)と本学湯川学長(右)



ハノイ国家大学外国語大学のHOA学長(左)と本学湯川学長(右)

### ハノイで大学院説明会を開催

11月17日(水)にハノイ大学、11月29日(月)にハノイ国家大学外国語大学で大学院説明会を開催し、現地で日本語を学んでいる学生が多数参加しました。発展途上にあるベトナムはまだ新たなビジネスチャンスが眠っているため、日本の経営管理手法やビジネスプランの作成法などを学ぶ事業創造大学院大学に、多くの学生が関心を示しました。すでに数名は、2011年春学期の入学試験に出願し合格済みです。秋学期には、さらに多くの入学者が見込まれています。



ハノイ大学での説明会(宇田教授)



ハノイ国家大学外国語大学での説明会(丸山准教授)

### ビジネスメッセで事業計画を披露

11月28日(木)～29日(金)に行われた「新潟国際ビジネスメッセ2010」に本学も参加しました。ブースでは、2年生のTRAN MINH PHUONG(チャン ミン フォン)さんが「事業計画書」の発表を行いました。プレゼンを聞いた来場者からの客観的な意見や感想がとても参考になったそうです。中間審査を数日後に控えたフォンさんにとっては、事業計画をブラッシュアップするための貴重な場となりました。卒業後は日本国内での就職が決まっているフォンさんですが、実務経験を積んだ後はベトナムに帰国してプライダルをプロデュースする会社を設立し、この事業計画を実現させる予定です。



来場者にプレゼンするフォンさん

### 佐川留学生奨学財団への奨学生採用が決定



授与式で採用証書を受け取るフックさん(右から2番目)

1年生のPHAM MINH PHUC(ファン ミン フック)さんが公益財団法人佐川奨学財団の奨学生に採用され、11月6日(土)に開催された採用証明書授与式・交流会に出席しました。奨学生には月額10万円が2年間支給されます。同財団は、次の世代を担う東南アジア諸国からの私費留学生の支援を行うことを目的に、文部省(現文部科学省)の認可を受けて設立されました。今年の採用者は全国で16名。一部の優秀な留学生しか採用されない難関として有名です。フックさんが採用されたことは、本学にとってもたいへん名誉なことです。

### フックさんのコメント

採用の通知を受けた時、自分でも信じられないほどびっくりしました。運が良かったです。授賞式後の交流会では、たくさん優秀な奨学生と会って友達もできましたが、もっと頑張らないと他の奨学生に追いつけないと感じています。これからの努力は本当に大事ですね。来年も懇親会が開催されるようなので、事業創造大学院大学の先生方のもとで成長した姿を見せられるよう、頑張ります。